

「三島大里学園の弓矢踊り・面踊り伝承活動の取組」

1 学校名

三島村立三島大里学園

2 学年・人数

1年生から9年生（計16人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年6月～10月 本校集会室・大里地区健康広場・体育館

令和5年10月3日（火）運動会予行演習（大里地区健康広場）

(2) 発表の日時・場所

令和5年10月8日（日）大里地区・三島大里学園大運動会（大里地区健康広場）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について

(1) 名称

弓矢踊り（ゆみやおどり），面踊り（めんおどり）

(2) 由来

ア 弓矢踊り

1584年，島原北部の沖田畷において，龍造寺隆信と，侵攻を受けた有馬晴信，有馬の援軍に向かった島津家久との間で勃発した戦をモチーフとしている。この時，家久の子豊久は15歳で参戦し，見事な若武者ぶりを披露した。その勇姿を表したものである。

イ 面踊りは，五穀豊穰と子孫繁栄，生産を祈る踊りで，手にはメシゲ（しゃもじ）と播り粉木を，腰にはひょうたんを持ち，生産を意味している。

(3) 構成等

ア 弓矢踊り

烏帽子をかぶった島津軍と兜をかぶった龍造寺軍の二列にわかれ，鉦と太鼓の音で入場，各列先頭の二人が島津豊久役と龍造寺隆信役となり，地唄手の唄に合わせ，鉦や太鼓で調子をとりながら踊る。

イ 面踊り

ボロをまとい，ビロウの葉，シュロの皮，ガジュマル根等で身を飾り，腰には瓢箪を下げ，顔には鬼，おかめ，ひょっとこ，かっぱ等の面をかぶり，右手にメシゲ，左手に播り粉木を持ったメンが二組に分かれ，奇抜なかけ声を出しながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

地唄手（ジュウテイ）の方々3人と出身者1人に、「ふるさと先生」として学校に来ていただき、踊り方等のご指導を依頼している。衣装合わせや踊り揃えなど、子ども会や地区の協力もいただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 前期・後期課程の弓矢踊りと面踊りの練習の時間を合わせた。
- (2) 前期・後期課程合同の練習時、「ふるさと先生」に指導をお願いした。
- (3) 弓矢踊りで使う弓・矢を修理した（弓・矢の装飾を新しく行った）。
- (4) 昨年度までは、新型コロナウイルス対策のための運動会種目削減により、隔年で弓矢踊りと面踊りを行ってきたが、今年度から両方への取組に戻した。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【面踊り（地唄手さんと一緒に）】運動会



【弓矢踊り】運動会

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【7年生生徒】

今年はずじめて踊りに参加しました。複雑な動きも多く、最初はなかなか踊ることができませんでしたが、友達や先輩に教えてもらったり、ふるさと先生に御指導いただいたりして、本番では自信をもって踊ることができました。これからも伝統を引き継いでいきたいです。

【教職員】

4年ぶりに「面踊り」「弓矢踊り」の両方を踊ることができました。ふるさと先生の御指導の下、はじめての1年生も見事な踊りを披露してくれました。このようにこれからの子どもたちが担う役割は大きいと感じました。

【地唄手】

子どもたちが毎年運動会で披露してくれるのを地域の人たちも楽しみにしています。今年は2つの踊りに挑戦してくれて、感動しました。この踊りが消えてなくならないように、私達も継承に力を入れていきます。